

受動喫煙 屋外でも厳しい日



禁煙週間 6日まで

世界禁煙デーの31日、6日までの禁煙週間が始まった。政府は2020年東京五輪・パラリンピックをにらみ、受動喫煙対策の強化を検討。飲食店の「屋内禁煙」が取りざたされる中、コンビニエンスストア前などの「屋外喫煙」にも市民の厳しい目が向けられている。

名古屋地裁で4月、名古屋が最寄り駅に向かう際に名古屋市昭和区のコンビニ店経営者と近隣の主婦水島早苗さん(57)との間で和解が成立した。

訴訟で、原告の水島さんは、近所のコンビニ店前にある灰皿の撤去などを求めた。日頃から、水島さん

一方の店側は「ポイ捨て

防止が趣旨」「原告が健康

被害を被ったとは思われな

い」と反論。ただ、提訴さ

れた後に灰皿を撤去してお

コンビニ前の灰皿「実質的に喫煙所」

■受動喫煙対策をめぐる主な動き

- ◆今国会で対策強化の法案提出を目指す厚生労働省と自民党との調整が難航
- ◆23日告示の東京都議選で争点に。小池百合子知事が率いる「都民ファーストの会」が「子どもを受動喫煙から守る条例」制定を公約に掲げる
- ◆元陸上選手の為末大さんが5月24日、屋内禁煙の実現を求める声明を発表。30平方メートル以下のパーやスナック以外の飲食店を原則禁煙とする厚生労働省案を支持

り、今後も置かないことなどを約束して和解した。水島さんは「コンビニ前は子どもや病気の人も通る。コンビニ業界は対策を

一人用ボックスに関心



狭い事務スペースにも設置できる「組立式分煙装置」＝菱熱工業提供

受動喫煙への問題意識が高まる中、注目を集めているのが、一人用喫煙ボックスだ。菱熱工業(東京)は昨年7月に、「組立式分煙装置」を販売した。電話ボックス型で、高さ

230センチ、幅60センチ、奥行き60センチ。電源コンセントで動く。装置内側の上部にフィルターや消臭剤があり、ファンでボックス内の空気の清浄をする。外に空気を出不さない仕組みで、煙は漏れないという。女屋哲意営業課長は「狭くて設置の難しい場所でも使えるため、重宝してもらっている」と話す。1セット21万6千円で、これまでに800台超を販売。多い時で1日50件を超える問い合わせがあるという。

進めてほしい」と訴える。店前の灰皿について、コンビニ各社は「喫煙スペースとして設けているわけではない」と強調する。入店時に火を消してもらおうことや、ポイ捨て防止などが目的だという。一方で、大手コンビニ関係者は「たばこを販売しているのに吸う人の権利も守らないといけな

州看護福祉大の川俣幹雄教授(リハビリテーション医学)はそう指摘する。今年2月、インターネットを通じて約1万人に受動喫煙についてアンケートをした。その結果、非喫煙者で月1回以上、受動喫煙した人の割合は73.5%だった。場所では最多は「飲食店」の62.1%。「コンビニの出入り口」は56.7%で、「路上」「遊技場」に次いで4番目に多かったという(複数回答)。

産業医大の大和浩教授(健康開発科学)の研究によると、屋外では喫煙地点から風下の25メートル先でも受動喫煙するケースがあるという。大和教授は「健康な人は短時間で健康障害が発生することはないが、化学物質過敏症の患者さんは短時間でも症状が悪化する」と話す。「屋内禁煙」を徹底し、屋外に高さ3メートルの壁で囲った「公衆喫煙所」の設置を提言している。大和教授はコンビニの灰皿についても「従業員は短時間で何度も煙にさらされる。発がん性は明白なので容認すべきではない」と語る。(齊藤佑介)